# 中学校年代における部活動としての女子サッカーの普及に関する考察
# A Study on the Spread of Women's Football Club Activities of Junior high school.

1K10C226　　鈴木 妙佳
主査　深見 英一郎　先生　　副査　堀野 博幸　先生

## 【本研究の動機と目的】

私は中学１年生から現在までサッカーを続けており、現在は社会人クラブチームに所属しプレーしている。サッカーは女性の間でも幅広い年齢層でプレーされていて、11 人制や８人制、フットサルなど、個人のライフスタイルや興味に応じて楽しむことのできるスポーツである。

2011 年にサッカー日本女子代表（なでしこジャパン）がワールドカップで優勝し、翌年のロンドンオリンピックで準優勝という成績を残したことにより、女子サッカーは大変注目されている。女子の競技人口やチーム数が増える中で、中学校年代の競技人口は小学校・高校年代と比べて圧倒的に少ないというデータがある。

また、私自身、中学時代は中高一貫校の女子サッカー部で活動していたが、周辺地区では中学校女子サッカー部の数が少なかったことから出場できる大会や試合は限られていた。そのため、年間を通して中学校単独チームで活動することは難しく、時には高校のチームと一緒に活動しなければいけなかったことから、幾度となく「活動しづらい」と感じた経験があった。

そこで、中学校の部活動として女子サッカー競技を広く普及させることで、中学校年代の競技人口の増加に繋がるのではないかということを考え、今後の女子サッカーの継続的な発展のためにその可能性について考察したいと思ったことが本研究の動機である。

本研究では、まず日本における女子サッカーがどのように誕生し、今日までどのような経緯をたどり発展してきたのか､日本の女子サッカーの歴史について考察した。次に、今日における女子サッカーの現状と課題を明らかにし、様々な観点から中学校の部活動として普及させていくための方策を検討することにした。

## 【方法】

本研究では、女子サッカーや運動部活動、さらにはサッカーに関連する文献、資料、ホームページを中心に資料収集・考察を行い、女子サッカーを中学校の部活動として普及させていくための方策を検討した。

## 【第１章】

本章では、日本における女子サッカーのはじまりや女子サッカーがどのように発展してきたのかを明確にした。

日本における女子サッカーの最古の資料は、1924 年に撮影されたとされる女性が袴をはいてボールを追う姿が写された１枚の写真である。その後、1979 年に日本女子サッカー連盟が設立され、全日本女子サッカー選手権が開催された。1989 年に日本女子サッカーリーグが誕生し、J リーグブームにあやかり、世界の強豪国の代表選手が集まるような「世界最高の女子リーグ」と呼ばれるまでに発展した。しかし、バブル経済崩壊の影響を受け、企業に依存したチームの多くが解散や縮小に追い込まれ、リーグも縮小した。その後、再興を図り、2 部制への移行や協賛企業を迎え、カップ戦やオールスター戦を行うまでに至った。そして、近年のなでしこジャパンの活躍により女子サッカーが再び大きな注目を浴びている。

## 【第２章】

本章では、女子サッカーの現状を明確にし、様々な観点から中学校部活動としての女子サッカーの普及について考察した。日本サッカー協会のデータや現役選手のインタビューから、中学校年代の競技人口が少ない現状を明らかにした。また、中学生にとって部活動は身近なスポーツ環境であり、部活動の教育的側面を生かしサッカーの技術習得と同時に日本サッカー協会の掲げる「なでしこ」らしさの育成の可能性も示唆した。また、性差や発育発達にも注目し、女子チームの受け皿の整備や女性としての将来を尊重した指導の必要性を考察した。

さらに、日本サッカー協会の女子サッカーに関するさまざまな取り組みを紹介した。加えて、中学校年代より部活動として普及が進んでいる高校年代のインターハイ開催までの取り組みについて紹介した。

## 【結章】

結章では、中学校の部活動としての女子サッカーの普及に向けた展望と課題について記述した。

女子サッカーを中学校の部活動として普及させていく上で、指導者・顧問の確保、練習場所・部員の確保といった課題が明らかになった。これらの課題は、日本サッカー協会のこれまでの取り組みを踏まえ、十分に解決できるものであると考える。

本研究において、女子サッカーの現状を踏まえ、部活動という点や性差、発育発達の観点から、中学校の部活動として女子サッカーを普及させていく必要性があることを結論付けた。